

同窓生  
シリーズ

57

特集  
〈朝陽会事務局〉

7 回生

吉村 悟



私が新宿高校を卒業したのは丁度五十年前の昭和三十年三月でした。当時の校舎は二階建てで今の新校舎と同じ所に建っていました。私の家は御苑の正門に近いところにあり、住所も新校舎と同じ内藤町でした。ですから新宿高校が渋谷区から新宿区に戻ったことは、私にとつて大変嬉しいことです。

在学中私は軟式野球部に所属し春から秋までは毎日野球に明け暮れ、冬はもっぱら映画を見て過ごしました。見たものは殆ど洋画で大体西部劇や戦争映画をみて楽しんでいました。音楽ももっぱらアメリカンポップスを愛好し、時代の先端を行つたつもりでおりました。当時の新宿高校生は山登り、映画鑑賞や野球見物など新宿という繁華街にいるわりには健全な趣味を持ち、しかしよく遊びその合間に勉強していたような感じでした。

私はサラリーマンの現役のときは同窓会活動とは程遠い生活をしておりました。しかし縁があつて四年ほど前から事務局長をおおせつかり、週に2〜3回同窓会の事務室まで来ております。昔は校長先生といえは大変なお年寄りと思つていましたが、いまや校長先生より遙かに年上と言ふことで、何か不思議な気持ちになります。

朝陽同窓会の会員は現在二万七千人を超えており、政界、財界、教育界、公務員、お医者さんなどありとあらゆる方面で活躍しております。同窓だということが分かると、初対面でもすぐ学校時代の話で会話が弾

みます。後輩は先輩のことをいつまでも経つても敬いの気持ちで接してくれるし、先輩は後輩をわが子のように可愛がつてくれます。このような先輩後輩と接することは私の人生にとつて大変うれしいことであり、事務局長をやらせて頂いて良かったなと思つております。

事務局には私のほかに松本幹事長（中21回）、小出さん（7回）、江幡さん（26回）が勤務しております。仕事は同窓会員の名簿の管理、会報や名簿の発行などが主な仕事となっております。昨年は前校舎で学んだ方々の提案で校舎や朝陽会館との別れ会を開催し、千人近くの参加者を集め、朝日新聞や読売新聞にも大きな記事が載るほどの盛況でした。

また昨年は財団法人朝陽会が中心になつて館山寮の大改修を行いました。この朝陽会は先生方と保護者、それに同窓生が一緒になつて作つた会です。館山寮改修の総工費は四千万七百万円で、そのうち二千四百万円を同窓会などからの寄付金で賄いました。これらの寄付金の会計整理や改修工事の監修なども事務局の大きな仕事です。今年も引き続き館山寮の改修を計画しております。生徒たちが臨海教室で楽しく快適に過ごせるよう、保護者の皆様や同窓生の方々のご協力を期待しております。まだみんな小さいのですが、私は六人の孫がおります。将来孫たちが憧れて入りたくなるよう、新宿高校のますますの発展を祈念致しております。